

## PRESENTAZIONE



### Elvira Ruocco (エルヴィーラ ルオッコ) さん

Alfa Romeo (アルファロメオ) 社を退職して「Alfista (アルフィスタ)」の世界へ  
近日私たちの仲間入り！

私たちは Club AlfaSport ウェブサイト内に彼女のスペースを設け、アルファロメオ社での体験談を彼女に寄稿してもらいます。在職中に携わった仕事のこと、在職中に接した Luigi Fusi (ルイージ・フージ)、Giuseppe Busso (ジュゼッペ・ブッソ)、Bruno Bonini (ブルーノ・ボニーニ)、Giovanni Battista Guidotti (ジョヴァン・バッティスタ・グイドッティ)、Guido Moroni (グイード・モローニ) といった経営陣や技術者との思い出話、そして世界中にいるアルファロメオの熱狂的コレクターについて語ってもらいましょう。

1972年、彼女は Portello (ポルテッロ) にある Direzione Assistenza (サービス統括部門) にて活動を始めます。1974年には Direzione Relazioni Esterne e Stampa (渉外広報部門) の主要スタッフとして Arese (アレゼ) に迎え入れられ、そこで彼女は強い好奇心と大きな情熱をもって仕事に望み、情報とコミュニケーションの分野でアルファロメオの企業活動をフォローすることとなります。1984年11月、Centro Documentazione (情報資料センター)・・・現在の Archivio Storico (歴史アーカイブ)・・・に所蔵されている膨大な資料を整理する仕事が彼女に委託されます。彼女は専門家の優れた技術と能力でその役割に取り組んで資料整理を完遂し、今では Archivio Storico (歴史アーカイブ) はアルファロメオを愛するすべての人、アルファロメオを学ぶすべての人、そして特に歴史的なアルファロメオを収集する人にとって貴重な情報源になっています。私たちは、今回の彼女とのコラボレーションに欢喜しています。そして彼女を大歓迎します！

### *親愛なる Club Alfa Sport のみなさんへ*

*まずは、みなさんの会長に感謝の言葉を贈ることをお許しください。Alfa (アルファ) とは縁のない世界で生きていくのが無理なわたしに、引き続き Alfista (アルフィスタ) の世界の一員としてとどまる機会を与えていただきました。*

*ここでの読み物がこのウェブサイト専用のもではなく、日本語を含め、さまざまな言語に翻訳され、世界中の Alfista がアクセスして読むことが出来るという事に最も感激し、プレジデントから頂いたお誘いを受けることにしました。*

*フリーアクセスという決断をされたプレジデントに感謝するとともに、翻訳にかかわる方々にも同様に感謝いたします。*

*では、楽しんでお読みください！*

[Elvira Ruocco \(elvira.ruocco@alfasport.net\)](mailto:elvira.ruocco@alfasport.net)

## PRESENTAZIONE



### 2005 クリスマス・グリーティング

親愛なる Club Alfasport のみなさんへ

来るクリスマスへのお祝いを申し上げるとともに、自動車コレクションへの情熱についてお話してみたいと思います。ある専門誌によるとヴィンテージカーの愛好家が近年著しく増加しているということです。この状況は好ましいものではありません。個人的には、ヴィンテージカーはある種の文化であり、本当のコレクションはインテリジェンスを表現することだと思っています。一台の車を保存することは、その時代のストーリーを保存するようなものだからです。

1909年にFilippo Tommaso Marinetti (フィリッポ・トママーソ・マリネッティ) は記しています。「断言してもいい。この雄大な世界は新しい美によって満たされるだろう。速さという美によって。レーシングカーのボンネットには蛇にも似た大きなパイプが装着され、機関銃が爆裂したようなサウンドで駆け抜ける自動車はSamotracia (サモトラチャー) の勝利(\*)よりも美しく・・・」このフレーズは自動車を体験した者が抱く不条理で熱狂的、機械的で騒々しく荒削りな興奮をうまく言い当てていました。

現代の自動車デザインにはヴィンテージカーへのあこがれが見て取れます。派手なフォルムのデザイン論争をしているだけではないのです。現代の車にはエレクトロニクスが満載されており、もはやドライバーはその手足で馬力をねじ伏せてコントロールをする必要はなく、bit やら byte をジェスチャーで扱っていればいいのです。そして、このように幾多の電子システムに依存すればするほどますますドライバーの重要性はなくなっていき、ドライバーは自分の車に無関心になっていくのです。だからこそ人はヴィンテージカーを運転して冒険心を満たし、歴史を直に感じるのです。しかし、ほとんどのヴィンテージカーのオーナーにとって車は有難い資本投資の対象となっています。実際、彼らにとってその貴重なジュエリーとも言えるヴィンテージカーがどんなに高性能な移動手段であるかどうかは問題ではないのです。仏教徒に言うように彼らにもキリストの「真理は道なり」と言うことができるでしょう。

このヴィンテージカー道は常に障害のある道です。ドライバーは狭いコックピットに座り、フロア下にあるエキゾーストパイプの熱で足は火傷しそうになりながら、大きなウッド製ステアリングホイールで息を切らせながら操縦するのです。焦げたオイル、ひびが入った鉄板、しわになったレザー、でもそれらに価値があるのです。それらのために職人が費やした膨大な作業時間で価値があると言っているわけではありません。

それらが良い状態に保たれるために必要とされるのは現代の車よりも多くの寛容力、確固たる経済力、特に忍耐力です。機械が好きで、どんな細部にもオリジナルにこだわり、走行可能な状態で車両を保つことを愛する人がいます。また、スポーツを愛し、レースを楽しむ人もいます。レースカーの性能の限界は真の運転する喜びを与えてくれるのです。現代のレースカーの性能に較べれば、たいした速度ではありませんが。

さらに、ブランドに賭ける愛は、その歴史を顧みることでも育まれます。ですから興味ある車の記事が記載された雑誌、カタログ、モデルカーや書籍を集め始めたりするのです。まったくこのことは重要なことで、ある車を所有することと同じくらい重要なのです。

「本当の車好きは自分の手で車をメンテナンスするのさ」ある日Alfista (アルフィスタ) である友人がわたしに黒く汚れた指爪を誇り高く差し出して言いました。この感動的な愛着心はとても美しく、伝染性のものでもあります。この愛の虜になった者はその運命に身を任せなければなりません、ヴィンテージカーは不治の病だからです。さあ、思い巡らせてみましょう、Alfa Romeo のことを！

心からのメリークリスマス、そして良いお年を！

#### Elvira Ruocco

\* : Samotracia (サモトラチャー) の勝利

現存するギリシャ彫刻のなかで最も良い状態のものとされる Samotracia (サモトラチャー) の勝利はルーブル美術館にて展示されている。